

2007年度 同志社大学大学院

司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程

入学試験 第2次審査

試験問題

法律科目試験

（民法）

解答用紙は問題ごとに分かれているので、注意すること。

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 問題紙の本文は、2頁ある。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 解答用紙は、第1問が2枚1組、第2問が2枚1組の計4枚である。解答用紙の左上にそれぞれ問題番号が記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。
4. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
5. 必要がある場合は、各問につき1枚に限り解答用紙の追加配付を受けることができる。追加の解答用紙を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。追加の用紙には、問題番号の記入欄に問題番号を記入のうえ、受験番号欄に受験番号を記入すること。なお、用紙の追加配付を受けられるのは「法律科目試験（民法）」のみである。
6. 解答は、ペンまたは鉛筆で記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退出できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示に従わない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させる。
9. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。

2007年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題 法律科目試験

(民 法)

「第1問」

Aは、自己所有土地上に居住用建物を建築する計画を立て、B工務店との間で建築請負契約（以下、「本件契約」という。）を締結した。AはBに対し約定どおりに逐次代金を支払ってきたが、Bは資金繰りに行き詰まり、建築工事（以下、「本件工事」という。）の半ばで工事を中止してしまった。そこで、Aは適法に本件契約を解除し、改めてC工務店との間で、Bの行った本件工事の出来形部分（以下、「本件建前」という。）を基に建物を完成させる請負契約を締結した。

Aは本件契約を解除する直前になって、「Bが本件工事のすべてを別の工務店Dに一括して下請けさせていたこと、Dも本件工事をBから一括下請けした事実をAに告げることなく工事を行っていたこと、そして、BがDに対して下請代金を全く支払わなかったため、Dは工事を中断したこと」を知った。

なお、本件契約において、Aが適法に本件契約を解除した場合には、本件工事の出来形部分の所有権はAに帰属する旨の特約がなされていた。

以上の事実関係のもとで、次の問に順次答えよ。

- (1) Dが本件工事のすべてをDの出捐により行った場合、Dは本件出来形部分の請負代金相当額をAに対して請求することができるか。できるとすれば、どのような理由付けによるか。できないとすればその理由を、それぞれ説明せよ。
- (2) Cが本件建前を基に建物を完成させた場合、完成建物の所有権は、いつ、だれに帰属し、または移転するか。

2007年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題 法律科目試験

(民法)

「第2問」

Aは、Bに対して300万円を貸し付け、C、Dは、それぞれBの委託を受けてBの債務（以下、「本件債務」という。）につき連帯保証人となった。Eもまた、Bの委託を受けて本件債務につき自己の所有不動産に抵当権を設定し、その登記もなされた。

以上の事実関係のもとで、次の問に順次答えよ。

- (1) Bは本件債務につき利息は支払ったものの、元本債務（300万円）を弁済しないために、CがAの請求に応じて連帯保証人として300万円を支払った場合、Cは、B、D、Eのそれぞれに対し、どのような権利を取得するか（なお、弁済にあたっての事前の通知、事後の通知の問題は捨象する。）。その点に関して民法に規定があるならば、それを挙げて説明せよ。
- (2) (1)の場合において、CがBに対して取得する権利を確保するために、民法はどのような制度を用意しているか。その制度に基づき、CはD、Eに対しどのような内容の権利を取得するか説明せよ。